

# 造影剤を用いる MRI 検査（ 年 月 日予定）の説明書

## 1. 目的

造影剤を用いる MRI 検査では、造影剤を 10-20ml（成人の場合）静脈注射して検査します。造影剤によって血管、臓器、腫瘍などの病変が様々な程度で染まることで、小さな病変を見つけたり、病気の進行の程度、血管の病気、血流の程度を正確に評価するのに有効です。検査の部位や目的によっては造影剤を使わなくても十分に診断できることがあり、この場合は造影剤を使用せずに MRI 検査を行います。一方では造影剤を使用しないと正確な診断ができず病気を見過とす場合があります、医師が患者の利益になると判断した場合に造影検査をお勧めしています。

## 2. 造影剤の副作用について

- 1) まれに血管外に漏れることがありますが漏れた造影剤はじきに吸収され心配はありません。ただ、腫れが強い場合は処置が必要となる場合がありますのでお知らせ下さい。
- 2) 軽い副作用：1%以下の割合で治療不要なかゆみや胃の不快感、嘔気、嘔吐、発疹等が生じることがあります。
- 3) 重い副作用：数万人に 1 人の割合で治療が必要な呼吸困難、意識障害、血圧低下等が生じることがあります、また腎機能が悪い人で造影剤を使用すると腎性全身性線維症という全身の皮膚が線維化する病気が生じることが報告されていますが、当院で使用している造影剤でのこの病気の報告はほとんどありません。
- 4) 死亡：100 万人に 1 人

当院では万一の副作用に対しても迅速かつ最善の処置ができるようにマニュアルを作成し、体制を整えています。もし息苦しさを吐き気などの異変を感じた場合はすぐにお知らせ下さい。